

生徒氏名: C

責任者:

## 【責任者とは】

授業では複数の講師がローテーションしながら1人の生徒を指導しますが、月間報告は1人の講師が長期的に担当し、生徒の成長を見守っています。また、この報告書は講師全体で共有され、授業に還元しています。

## ①今月の最重要課題とその対策

適宜作文につながる言葉をいれる…文のリズムを意識する

## ②その他課題と今月の対策（「今月の対策」は具体的な内容が必要な場合のみ記入します）

現状の課題	今月の対策
(作文)テーマを意識して情報の取捨選択をする	200字にまとめる上でメモをヒントにして取り組む
(作文)「だから」「なぜなら」「実は」を使って理由を意識する	特に『科学なぜどうして』において心掛ける

## ③先月の教材ごとの取り組み数とその状況

教材名	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	状況
きまぐれロボット	1	1	1	1						内容理解に時間がかかる
科学なぜどうして(中級)	1	1	1	1						作文の内容が良かった

## 【取り組み数について】

上記の数字「1」は、作文を書き上げた本数を意味します。『きまぐれロボット』のみで90分かかるとも往々にしてあるので、毎回『科学なぜどうして』を並行してこなせているのは非常に良いペースだと言えます。

## ④責任者コメント欄

『きまぐれロボット』は文章教材で情報量も多くなったため、全体的に要点を掴むのに苦戦しています。これに取り組む時には、話の大枠を捉えるためにまず「変化の前後」と「その理由」を記したメモを作成します。その際、「変化の前後」の主語を統一すること、物語文なので心情に注目してまとめることをルールにしています（心情を入れづらい話の中にはありません）。しかし、まだ慣れていないこともありどちらも意識できていません。例えば、「裕福なアール氏は、ある男に『昔のことを思い出せる薬』を広めるための資金提供を頼まれた。初めは乗り気だったものの、それを飲んでみると子どもたちの目の前にいる男にかつていじめられていた記憶がよみがえり、その話を断った」という話がありました。ルールに沿って〈変化前〉アール氏は男への協力に積極的だった、〈変化後〉アール氏は協力するのをやめた、〈原因〉男にいじめられていたと思出したから、となるのですが、C君は前後の主語がそれぞれ「男」と「アール氏」でばらばらになっていました。メモの後に取り掛かる要約作文は今までと同じく200字で行います。そのため、一つの対象に絞って内容把握することが大切です。上記のようなメモにすることで、きちんと要点を押しえられるようになります。

最後に「主題」を考えます。これは具体的な内容から、他の場面にも広く当てはまる抽象的な要素を取り出す作業で、上記の話では「昔した悪いことはいつか自分に返ってくる」というようなことが言えます。授業ではこれに適する四字熟語を尋ねると「自業自得」を出せたので、よりふさわしいものとして「因果応報」も教えました。日常生活に結びつく学びができるように指導していきます。

『科学なぜどうして』はある現象の仕組みや生き物の生態などを述べた短い読み物で、それを「因果関係」に着目して要約します。本文から大事な部分を掴み取り、理由のつながり言葉を用いて情報を整理することができていました。

## ⑤保護者記入欄（要望、疑問などありましたら、どのような内容でも構いませんのでお書きください）

## ■『きまぐれロボット』の進め方とそれぞれの作業の目的

- ①メモ 話の要点を押さえる
- ②要約作文 メモの内容を踏まえて情報の取捨選択をする
- ③主題 具体的な内容を抽象化し、その話から得られる「教訓」を考える

## ■4年生の作文について

入塾した時期や個人のペースによって、取り組んでいる教材には差があります。漫画教材での内容理解が十分であると判断されると、文章教材に移ります。長い文章の中から重要な部分だけを拾い上げ、大枠を捉える練習をしていきます。

確認印